ギャンブルオンブズマン

（ギャンブル依存症を生む公認ギャンブルをなくす会）

大阪市中央区北浜1-2-2　北浜プロボノビル

事務局　井上善雄（[inoue@peacelaw.jp](mailto:inoue@peacelaw.jp)）

TEL：06-6202-5050／FAX：06-6202-5052

会ブログ：<http://gambl.seesaa.net/>（ﾊﾞｯｸﾅﾝﾊﾞｰ他掲載）

**なくそう！**

**ギャンブル被害**

会報第44号　2016/6/30

/

１／２５　/

ギャンブル依存症を生む

　　　　公認ギャンブルをなくす会

大阪市中央区北浜1-2-2　北浜プロボノビル

事務局　井上善雄（[inoue@peacelaw.jp](mailto:inoue@peacelaw.jp)）

TEL：06-6202-5050／FAX：06-6202-5052

会ブログ：<http://gambl.seesaa.net/>（ﾊﾞｯｸﾅﾝﾊﾞｰ他掲載）

【目次】タックスヘイブンとギャンブル／コンピューターギャンブルゲームと詐欺／コラム：ゲームセンターはギャンブラーの養成所、スマホによるゲーム依存、鬼平（長谷川平蔵）と博奕、パチンコ店の風営法違反摘発の裏側、あなたの競馬が走り出す、公営競技選手の死傷、ギャンブル依存症問題研究会発足、昔は貴族　今「大衆」の競馬／パチンコ小史（1）／賭けの哲学／投稿：遊びと現代ギャンブルに導くシステム、パチンコ体験記／日本ギャンブル症候群の歌／ギャンブルオンブズ狂歌・川柳／書籍紹介／NEWSピックup／事務局だより

**タックスヘイブンとギャンブル**

１．タックスヘイブン（TAX haven）とは、直訳すると「税金の避難港」で、税金回避地のことである。法人税や利子配当の源泉税が全くないか非常に安い、又は別の税法上の特典がある国や地域をいう。そのような国や地域は、欧州ではリヒティンシュタインやスイス、大西洋のバミューダ、中南米のケイマン、パナマ、アジアではマカオなど多数存在する。（※１）

　　そのうち、パナマの法律事務所モサック・フォンセカから、タックスヘイブン利用顧客名簿等が大量に流出した。これが「パナマ文書」である。1150万件のデータで、単なる流出でなくハッカーによって盗まれた可能性も高い。これに世界は驚かされた。

第一の理由は、イデオロギーを超えた世界の支配的政治家やその関係者らの名が判明したことである。富の公平分配や不正の是正、脱税、汚職の摘発をいう一方で、世界のリーダーやその周辺の者がタックスヘイブンの国や地域で蓄財あるいは租税回避をしていたからである。

第二の理由は、富の格差である。世界の上位1％の富裕層によって、富の50％以上が支配されているといわれている。現代の資本主義は世界的規模で市場や富を支配し、弱者を支配して財の収奪を強めてきた。安倍総理のアベノミクスは、「上が豊かになれば、順次下位の者も豊かになれる」というトリクルダウンを振りまいていたが、国費・税金投入と金融策で大企業がより金持ちになる結果にとどまっている。日本のビッグビジネスや金持ちもその中にある。

パナマ文書は、パナマにある法律事務所が、形ばかりの会社を設立することでタックスヘイブンを利用できるようにした顧客名等が記載されたものであった。日本関係だけでも大手銀行など約270社、セコム飯田会長ら400人の情報等が判明している。これが具体的に誰でどういう意味なのかは調査が待たれるところである。しかも、世界全体のタックスヘイブンにかかわる日本企業や日本人の名はパナマ文書では限られている。

　　タックスヘイブンは、企業や富裕者の税回避地ではあるが、この「税逃れ」に対し、日本でも2016年末までに「タックスヘイブン対策税制」が適用されるものが生まれよう。

２．さて、ギャンブルオンブズマンは、ギャンブルが租税の課税回避や脱税の時・場・機会（ＴＰＯ）を提供していると主張してきた。

　　実は、証券投資と共にギャンブル、特に公営賭博は法制からも租税回避をシステム化している。宝くじやスポーツ振興くじは、当せん金への所得税を非課税としているし、消費税も課していない。例えば、300円くじ1枚を購入して６億円を当てたとしても全く課税されないのである（当せん金付証票法、スポーツ振興くじ法）。公営競技といわれる競馬、競輪、競艇にオートレースは、法律上一時所得の対象となっているが、大穴で100万円を当てても換金窓口での源泉課税もなく、この一時所得者の氏名も記録されない。（税務当局はそもそも課税を諦めている。）もちろん暴力団が絡む違法の闇ギャンブルでは誰も申告しない。

　　パチンコ・スロットも一回数万円を稼ぐ者がいるし、年に数百万円も稼ぐと出版物で豪語する者までいるが、申告したり納税する者はほとんどいない。（ギャンブルでは継続的にみると賭ける客の多くは平均して損をするが、法律上は収益をあげた個々の賭け分の集積が一時所得となる。※２）

　　したがって、ギャンブルの世界は事実上の「非課税分野」というタックスヘイブンなのである。その中でも最大のタックスヘイブンは、最も金持ちの集まるカジノである。カジノは金をチップやビスケットと呼ばれるものに交換させ、そのチップ等の賭けや譲渡（贈与）については何のチェックもなされない。現金がなくとも、貸金やカード処理、さらにはジャンケットと呼ばれる仲介人を通じて賭け金処理が事後的になされて融通される。まさにカジノはマネーローンダリング、租税回避、脱税の天国である。タックスヘイブンであると同時に、非課税の天国タックスヘブン（TAX　heaven）でもある。

３．さて、宝くじやtoto（BIG）の当せん金は、近時10億円にも達する。1000万～2000万本に１本というが、偶然にこのように極端な所得で金持ちが生まれても何の所得課税もしないことが、社会的に公正だろうか。本人の勤労努力によって所得があった場合でも租税回避をすることは脱税となるのに、偶然性によって得た収益に課税しないというのは不正義で反社会性、反公共性を持つといえよう。

　　大衆にくじを発売して高収益を得る宝くじやtotoは、売上金の40％が自治体収益金となる。そしてその収益金は税とともに公共のために使われるというのが、非課税にする名目（？！）だ。しかし、税にはその目的、趣旨や基準、課税の根拠の相当性説明がいるし、それを負担する不公正さ、公平性が検証されねばならない。

　　この点、何故10億円の当せん金について全く非課税でよいのかは、検証も説明もされていない。

　　公営競技で主催者が全体の賭け金の25～30％を収益として得るが、賭客は50万円を超えた収益の2分の1を一時所得として税を申告する義務がある。もとより競馬などで一度に100万円以上を稼ぐことは少ない。宝くじなどは購入者のほとんどが損をする一方で、100万円以上の当せんが10万～1000万本に一つという確率であるから、公営競技以上に確率が低いといえる。

　　このような幸運な者には、例えば当せん金が100万円を超えた場合には、収益に応じて一時所得課税とすることが公正である。宝くじに所得税を課す国は少なくない。日本はこの点、宝くじやギャンブル所得のタックスヘイブン（ヘブン？）であるといえる。

　※1：TAX　haven（off shore havenともいう）として有名な国・地域は、①所得税の全くない大西洋バミューダ、中米ケイマン諸島など、②国外源泉所得が非課税又は低率のパナマ、香港など、③特定事業活動の税の低いルクセンブルグ、スイスなどがある。課税回避のため実体のない企業が、こうした地域に住所登録するケースが多い。これらペーパーカンパニーが登録しているところをブッキングセンターと呼ぶ。

　※2：馬券のコンピューター購入で年に数億円を儲けながら申告しなかった者が、脱税として立件された例がある。裁判所は無申告について処罰し、コンピューターによるシステム購入ではハズレ券の購入資金も収益を得るための「経費」とみて、脱税額を低く評価する判例が大阪高裁と東京高裁で生まれている。しかし、馬券のコンピューターシステム購入という特殊方法による券購入に限られた判断である。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（Ｙ）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

**コンピューターギャンブルゲームと詐欺**

　　　　　　　　　弁護士　井上　善雄

１．近年のコンピューター制御が導入されたパチンコやパチンコスロット（パチスロ）は、数千万円以上する店全体のコントロールシステムから1台50万円以上の個々のゲーム機までによって、出玉のコントロールが可能となっている。そしてコンピューター化の一方、パチンコは公安委員会や警察庁、そして天下り外郭団体の下で射幸性が調整されている。

　　警察庁は、2015年秋、業界に対して出玉率調整が認可外の台が著しく多いとして自主規制を促した。だが問題は、コンピューターにより全体でも個々の機器でも出玉調整が可能なシステムを認めてしまっていることにある。昔も今も釘師による釘調整が公認されており、新店改装や新台導入の際には出玉調整が公然化され客を呼び集めている。欧米のカジノでのスロットマシーンはその出メダル調整が禁止されているのと対比すると、日本のパチスロは「実質の賭博開帳」の下での「詐欺ゲーム」といえる。

　　パチンコ機器メーカーは、調整可能な高性能機を店（ホール）に供給している。近年の新機種開発競争は、客をいかにその機器につなぎ留め持続してゲームさせ続けるかにある。人気マンガや有名キャラクターが登場するゲーム、関心を引くゲーム画像、光、音の演出によってその機器にそれこそ「釘づけ」にする。射幸心を高めて維持させようとする手法である。現在のパチンコ機やスロット機は、客のギャンブルを持続させ、依存を拡大させる魔力のある機器である。

　　このパチンコ機・パチスロ機が、世界で唯一の「日本型大衆カジノ」を生み、20～30兆円（売上）の産業にしたのであった。外国からはパチンコ店はカジノだと思われている。「三店方式」とも「四店方式」ともいわれる賞品の「店外」換金システムによって支えられた巧みな「脱法賭博」である。

そして、コンピューター化されたパチンコ産業は、車社会の郊外型大型パチンコ店と大都市での大型店（500～1500台）の登場によって、中小店を駆逐しつつある。パチンコ機器総数は400～500万台とされ、日本のパチンコ界は機器ギャンブルにおいて世界一を維持する。店舗数では一時18,000店を数えたが、今では10,000店へと減少している。全国に315店舗展開するパチンコホール業界1位のマルハンは、未上場企業のまま全国で従業員1万人以上（但し、臨時、非常勤を含む。非正規職員ともいう）を雇い、売上（貸玉）は2～3兆円ともいわれ、経常利益300～600億円を誇っている。その一方で、1台50万円といわれる最新の機器を買えない中小店は次々と廃業に追い込まれているのである。

２．このようにゲーム機がコンピューターで「武装」され、客を虜にしているのはパチンコ・スロットだけではない。多種のゲーム機を取りそろえるゲームセンターがそれである。

　　ゲームセンターでは換金はできないが、賞品を得ようとする客を虜にするよう巧みなシステムが導入されている。機械的な操作によって賞品を採るゲームは誰もが知るところだが、新しいところでは客を夢中にさせるために、疑似貨幣のメダルの大量獲得を狙わせて次々と操作させ、高度なものでは賞品獲得のための道具や手段を客に買わせるやり方をとっている。パチンコ・スロットで開発した技術を子供向けのゲーム機に導入できるし、パチンコ・スロットと同様、射幸心を刺激させる手法がとられているのである。（このため風適法はパチンコ店と同様、ゲーム店も規制している。）

３．コンピューターは、ギャンブル事業システムに広く深く導入されている。パチンコ・スロットだけでなく、公営競技の運営はすべてコンピューターによりシステム管理されている。客への勝ち馬（車、舟）投票券の販売もコンピューターで申込受付がなされている。

　　そして、コンピューターシステムは広告、販売、管理運営から配当システムまで大量処理を支えている。例えば、totoのBIGくじでは、くじの購入券そのものはコンピューター任せである。

　　現代の株や金融取引、先物取引は、コンピューターによるシステム市場となっており、素人がその売り買いに参加してもスピードについていけない。「カジノ経済」といわれる金融取引経済の世界からギャンブル世界まで、ますますコンピューターによる大量化・スピード化が進んでいる。実はコンピューターを操作できる大企業や少数金持ちらの「持つ者」による、大衆消費者らの「持たざる者」からの収奪のシステム化が進んでいるのである。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

コラム　　　　ゲームセンターはギャンブラー養成所

最近のゲームセンターは、子供だけでなく大人も夢中に遊ばせる…という話を聞いて、大阪阿倍野のQ’sモールにあるセガ（SEGA）に行ってみた。そこでは若者を中心に多くの男女が多種多様なゲームをしていた。かつての　硬貨を入れてぬいぐるみをとるキャッチャーもあるが、メダルを集めるゲームも多い。驚いたのは、ほぼ本物のスロットマシーンとパチンコ台が多数並べられていたことだ。パチンコ玉やセガのコインを集めれば長く遊べるようにしているのだが、パチンコ店とそっくりのゲームマシーンで、この台に高齢者から成人男女、さらに小学生までが興じていた。

　セガは、ゲーム機メーカーであり、パチンコ・パチスロ機メーカーでもある。その他、各種ゲーム産業を展開している。幼少期から成年までをゲーム依存にさせている。子供らは1000円札を硬貨に崩し、100円玉をメダルにしたりパチンコ玉にしたりして遊ぶ。薄暗い空間と操音以上の「騒音」下で客を熱中させる商売となった。かつて子供の遊びであったパチンコ機を大人が取り上げ、それをメーカーやホールが産業化してギャンブル遊技機にしたのがパチンコ・スロットだ。ゲームセンターは換金しないだけでパチンコホールと同じなのである。事実、老若男女がゲームセンター内のパチンコ・スロット機に興じている姿はパチンコ店と変わらない。

　パチンコ・スロット機以外の回胴式遊技機、アレンジボール機などのゲーム機も、メダルを集めるという子供の射幸心を刺激してゲームに熱中させ、1000円ぐらいは簡単に使ってしまうようになっている（もっともそうしなければ高額のフロアー賃料や人件費、機械のコストをも維持できないだろう）。

　これではゲームセンターは子供時代からのギャンブル養成所である。

スマホによるゲーム依存

　電車に乗ると座った者の過半はスマホをみて操作している。社内での通話はほとんどなく、メール操作はあるだろうが、ゲームをしている者が多いようだ。テレビＣＭもよく見かけるが、スマホのゲームへの依存者はかなり多い。ゲームは多岐にわたるが、まずは点数を稼がせ、その射幸性により持続させるものが多い。客を現実ではないキャラクターに同化させるものはパチンコだけでなくスマホにもある。

鬼平（長谷川平蔵）と博奕

火付盗賊改は池波正太郎の小説「鬼平犯科帳」や漫画（劇画）の同名さいとうたかお作品で有名となった江戸時代の役所・役人である。江戸には勘定奉行、寺社奉行、町奉行の三奉行のほかに、火付盗賊改という警察裁判権を持つ役人がいた。

江戸幕府には、先手鉄砲頭（さきててっぽうがしら）と先手弓頭（さきてゆみがしら）という、いざという時に出動する役目を持った部署があった。太平の世では大した仕事は実際になく、この先手頭が「加役」として火付盗賊改を持った。はじめは火付改、盗賊改、博奕改の３つの改があったが、八代将軍吉宗の享保年間に一本化された。

火付盗賊改（単に盗賊改方ともいう）は、市中を巡回し、３つの犯罪を取り締まって、拘束し裁判をした。ただ、町奉行も火付、盗賊、博奕を取り締まったので権限争いもあったという。加役の頭がお膳立てした犯人を裁くといったこともあって、町奉行や勘定奉行は「大芝居」、火付盗賊改は「乞食芝居」とも町人らからいわれていた。火付盗賊改は関八州外にも出動したが、幕末には縮小していったとある。（以上、石井良助「江戸時代漫筆」より）

　先手頭という武力による第一線が、火付、盗賊、博奕という組織集団犯罪を取り締まることにしたのは、今でいえば軍部ないし機動隊が暴力団・ヤクザを取り締まるようなものだった。博奕は昔からヤクザが組織的にやるものだったから当然だった。以下、川柳でいうと・・・

　　・鬼平が　賭場に踏み込む　御用だと

　　・博徒らは　島送りから　百きまで

　　・長官の　下に与力同心　小者まで　　　　　といったところだろうか。

（註）「小者」は、目明し（岡っ引き）と同様ですが、同心から僅かながらも給料を受けました。目明しやその手先は同心が私的に使っていた者でした。言葉からすると目明しは調査、密告役、岡っ引きは逮捕、連行役といったところでしょうか。同心に私的に使われ、飲み食いさせてもらう一方で、町人に対しその地位を濫用したことも少なくなかったようです。

　　　小説の銭形平次や半七捕物帖では、正義の目明しが十手をもって犯人を捕まえます。しかし、十手は同心が持つもので、例外的に捕物時に岡っ引きに十手を貸与したのでした。また、目明しは町内のトラブルを収めるかわりに、商家や博奕場、興行場から冥加金を得たり、博奕打ちの親分を兼ねる者などヤクザまがいのことをしていた例もありました。小説では十手持ちがヤクザの悪者という物語も描かれています。

パチンコ店の風営法違反摘発の裏側

2016年5月2日、京都府警と城陽署は城陽市のパチンコ店（法人）と店長（46歳）を風営法（風俗営業等の規制及営業の適正化等に関する法律）の無認可設備変更（同法9条1項、50条、56条違反）により書類送検した。

2016年1月19日～24日にわたり、店内パチンコ台2台を大当たりに玉が入りやすくする釘曲げ調整をしたという。この行為は、1年以下の懲役、100万円以下の罰金又は併科という犯罪になる。

これは1月、業界団体の「遊技産業不正対策情報機構」が府警に申告し、府警がパチンコ台を押収して鑑定し、不正を確認したものという。

パチンコ台の調整が多いこと―出玉率を高めたり抑制すること―は、釘師がパチンコ営業とともに生まれて60年以上の業界の常識である。警察庁（公安委）も自らパチンコ台（連続式、電動式打機からチューリップ、フィーバー機、電子画面機まで）を細かくチェックし、その調整幅を少なくしたり多くすることで保通協やメーカー、ホールとの癒着を深めてきた。

2015年秋、警察庁は、メーカーの納入台を含めて保通協と定める基準外のものが多いとして、自主規制を求めた。警察は、風営法（風適法）9条違反で自ら検挙すべきところを、メーカーやホールが広く加入する全日遊連に自主チェックするよう求めたのだ。すなわち、警察は、パチンコ機器の調整違反について、指定メーカーには基準を明示するも、実際には違反パチンコ機が全国に普及していることを知っており、建前上、違反はいけないと全日遊連というパチンコ業者団体に通知するということで済ませているのだ。

これは、江戸時代に奉行与力・同心が、寺や旗本屋敷などでのヤクザの博奕を見てみないふりをしつつ、時々私的な「岡っ引き」（同心の手下）に目に余る博奕を密告させていた手法と同じである。岡っ引きは博奕打ちの親分（賭博開帳者）からお小遣い（目こぼし料）をもらう者で、博奕も適当に取り締まっているとしている町奉行や火盗取締同心の点数稼ぎに役立つよう動いていたのであった。

「平和」が長く続いた江戸時代にヤクザは博徒として勢力を広げた。国定忠治は殺人から関所破りまでして獄門になったが、清水次郎長は博奕から土建業まで手を広げ、時の政府権力にすべて従って成功した。今でいえばマルハンやセガのボスに似ている。

現在の全日遊連をはじめ遊技業界は、自民党や個々の議員の資金源としても有力であり、全日遊連に従えない中小店は警察の手入れも覚悟しなければならない。　　　　　　　　　　　　　　　（Ｋ）

あなたの競馬が走り出す

　2016年5月29日（日）、東京競馬場での第83回日本ダービー（サラ系3歳　2400ｍ）が開催された。これは日本中央競馬会（ＪＲＡ）主催の最大のレースで、15時40分出走の18頭（8枠）によるレースは、2分24秒で2枠3番のマカヒキが勝利した。ハナ差の2着は4枠8番のサトノダイアモンドだった。5月に入ってから当日29日まで、テレビ、新聞、駅内、車内と大々的なダービー広告が展開された。「競馬の祭典」と自賛するが、競馬ギャンブルの最大興行であるというにすぎない。馬術という人と馬の一体となったスポーツは、オリンピックをはじめ世界的に多くあり、ＪＲＡの競馬興行が大々的になされているのは賭博興行だからである。年間5兆円に及ぶ中央競馬の中で、日本ダービーはその1ゲームだけで265.7億円が賭けられた。賞金は1着2億円、2着8000万円、3着5000万円だった。なお、払戻金は単勝3で4倍の400円、馬連、枠連は700円、3連単3-8-1は4600円だった。（馬連は1位2位の馬を、枠連は枠の馬の1位2位を当てるもの）

　ギャンブルへ誘う広告が大々的に展開されるのは、その売上の25～30％が主催のＪＲＡ側に入り、馬主、調教、機種を含む報酬やコストを十二分にまかなえるからである。

　競馬において、日本ダービーに加え、皐月賞（4月）、菊花賞（9月）は三大レースと呼ばれ、馬（サラブレッド）の人気を中心にして展開される。これらの馬は血統、特に牡馬（父馬）が重視され、重賞入賞の馬は引退後も種馬として大金を稼ぐ。ちなみに、今回の日本ダービー出走馬18頭のうち、1,3,8,14,18の5頭の父馬は2005年の三冠馬ディープインパクトで、1,2,3着の馬もこの子であった。（これに対し、母馬共通の出走馬は全くない。）それ故に馬主になること自体が大金を賭ける行為である。

　このように、競馬は馬を愛する者によるゲームのように宣伝されるが、金儲け目当ての大博奕である。この大博奕の開帳図利者はＪＲＡである。このレース1本で収入25％として66億円を荒稼ぐ。そのために連日連夜、テレビや新聞、駅や車内空間までが広告に溢れたのである。

　今日の競馬では、競馬場現地の客の馬券購入よりも、場外券売り場や楽天など通信販売、ネットで継続購入までの馬券購入を促す必要がある。

　そのための宣伝コピーが「あなたの競馬が走り出す」である。それは客の射幸心を刺激する言葉であり、タレントを使って笑顔で走る姿を演出し、「あなたの競馬が走り出す」と馬券購入行動へ誘導するのである。そして、ダービーで大金を失った多くの人々を川柳にすると、

**「競馬して　私のお金が　走り去り」　（駄尾）**

公営競技選手の死傷

日本モーターボート競走会は、2016年5月19日、福岡県柳川市にあるボートレーサー養成施設「やまと学校」で死亡事故が発生したと公表した。模擬レース中、女子訓練生（19歳）のボートに他のボートが衝突したという。

近年、公営競技は女子選手を増やしてファンを拡げようとしているが、危険な競技に客が賭けるギャンブルであることに変わりはない。実は昨年も、鈴鹿オートレースで女子選手が死亡している。危険だが金を稼げることもあり、これらの選手を目指す女子も多くなっているようだ。ケイリンでの転倒や競馬では落馬事故が絶えないし、公営競技の世界は死亡事故の危険でいっぱいである。

　これらはいわば職業選手にとっての「労災」であり、保険事故処理もされようが、これらの死傷事故の補償金もギャンブル事業においてコスト化されていることを知っておく必要がある。　　　（Ｍ）

ギャンブル依存症問題研究会発足

　ビッグイシュー284号（2016.4.1号）の26頁に「私が家を出た日」シリーズの第１回記事が掲載されている。ビッグイシューは販売価格350円のうち180円が販売者当人の収入になり、ホームレスの自立支援をしている。認定ＮＰＯ法人ビッグイシュー基金（佐野章二理事長）もあり、「つながって生きられる‶社会〟を市民がつくる」活動をされている。過年来、ギャンブル依存症問題について取組を深められ、昨年10月には特集出版『疑似カジノ化している日本』も発表している。

　さて、この284号記事によると、3月2日に福岡市で第1回ギャンブル依存症問題研究会を開催され、依存症に取り組まれている関東、関西、九州の人々による研究や活動を共有していく取組を継続される由である。

昔は貴族、今「大衆」の競馬

　古代ローマの皇帝は、コロッセオ（円形場）で競争や格闘技を都市民（選民）に見せ、市民の享楽に供した。人馬その他の競争や死闘が興行となったのである。被支配地域の奴隷や戦士がライオンなど獣と戦わされもした。このような戦いのショーは、今も南欧スペインの闘牛などに姿をとどめている。

　このような戦いのうち、馬によるものが競馬となった。余欲ある貴族は馬まで所有し、観客に賭けをさせた。ここに登場する客も富裕者であり、貧民は競馬場への出入りなど許されていなかった。「マイ・フェア・レディ」の貧者の小娘は、富者の伴となって初めて競馬場への入場が許されたのである。競馬は貴族・富者のゲームであり、ギャンブルであった。

一方、1948年以降の日本における競馬とケイリン、モーターボートレース、二輪オートレースは、富裕層だけでなく大衆や貧者から収奪をするものとして生まれたのだった。

2016年の皐月賞は4月15日東京中山競馬場に4万人を集めて行われた。熊本・大分の大地震の最中であったが、ＴＶ中継もされた。東京大地震でも起きて中止されない限り、ギャンブル熱は下がらないようである。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

**パチンコ小史（１）**

１．日本最大のギャンブル産業であるパチンコに関する本なら、新本はもとより古書も古本屋さんに頼んでできる限り入手している。

　　今回は、1923年生まれの小川和也氏の著書「世紀末パチンコ秘話―釘師50年　30兆円産業の汚点を暴く―」（恒久出版　1996.6.28　1456円+税）から氏のパチンコ体験史を紹介しつつ、パチンコ小史を述べる。

　　氏は、1943年に慶応大学を中退し、その年、現役徴兵され見習士官となっていたが、1945年の敗戦で1946年3月復員。戦後混乱期の日本のパチンコの状況も教えてくれる。1953年から札幌のパチンコ店で働くようになり、小題にあるように1995年3月、パチンコ会社の常務を引退した氏の自叙伝でもある。

　　氏は、平成に入りパチンコ業界における警察行政主導のプリペイドカードシステムやＣＲ期の導入によって、パチンコが「健全な娯楽」から「不健全なギャンブル」化していると告発する。

　　氏の立場（業者）としての視点を点検し修正して評価しなければならないが、1948年以後の日本のパチンコ界の中にいた者の小史で、しかも氏は業者店主ではなく雇われた店員から始まって札幌のパチンコ店の支配人会の会長になった者として、経営者と働く人、使われる人、客として、ヤクザ、パチンコ機・スロット機メーカーと警察公安の動きなどを自叙伝の中に絡めてコンパクトに書いている。その中からギャンブルオンブズマンとして参考になるところを中心に紹介したい。

２．＜第１章　パチンコの栄光と挫折＞

　　1948年9月1日、風営法の許可。正村ゲージといわれる日本型での人気化の貸玉1個2円で始まった。賞品はタバコと菓子、そして店が雇う釘師の登場。氏は札幌の在日韓国人の小店で働くようになる。樽での玉洗い、釘師の仕事や方法、客を勝たせるために玉の出やすい「放出台」、そこそこ遊ばせるだけの「遊び台」、客からパチンコ玉を回収する「回収台」を決め、台の釘を調整する。

貸玉1個4円となった頃、客が換金する際の全国平均は2円50銭。打ち玉に入賞の出玉を160％にしても原価は100％となる。しかし、新店、新規オープン時の1週間は出玉を200～400％の最高レベルにして集客力を高める。そこから少しずつ落としていく。平常時は、店の全パチンコ台のうち放出台を30％、遊び台40％、回収台30％の割合で設定していたが、正月や祭り、場所によっては遊び台を20％、回収台を80％にして店は大稼ぎした。

　　1953年、連発式パチンコが登場。それまで1個ずつ玉を入れて打っていたところ、1分間に150発も打つことが可能となり、パチンコ熱を煽った。そして全国に4万店というパチンコブームを呼んだ。当時は1玉2円で、500円では10分ももたず、客も店も賭博場化。100台の店で1日に20万円を稼ぐ日も珍しくなかった。しかし、その射幸性ゆえに1954年、警察庁が連発機を禁止したことでパチンコブームが去り、80％の店が廃業した。当時はパチンコ台の「島」（1列の並び）の裏には女性がいて、玉の補給などしていた。

＜第2章　起死回生のチューリップ＞

1956年の特別入賞穴のある「役物台」に続き、1970年にはチューリップ式パチンコが登場し、第二次パチンコ黄金期となる。1960年頃から「ゴト師」（悪事を働く）やヒモ師（島の女を手なずける）、パチプロ（パチンコで生計をたてる）が増加。天穴に入れる技術と、釘師による天釘・サイド釘など命釘の調整との斗い。連発機による出玉と賞品（煙草）の現金交換が始まる。そこに暴力団も関与した。店も景品換金所（換金システム）を設置した。中古業者が換金所のために店の敷地を借りる。特殊景品買取　→　卸売業（問屋）→　業者の三店（四店）方式となる。

4円の玉1個を2円50銭で計算して特殊景品に。その買取業務と卸業務を福祉団体に委任（そこの職員が換金業務に従事）。それを特殊景品店が仕入れる。換金総額の0.01％を手数料として買取業者らに。全国の換金客は95％以上。大阪の場合、特殊景品1000万円を買い取ると1店10万円支払う。特殊景品自動払出機（玉　→　玉数計算機　…　カード　…　払出金　…　金額に応じたケース特殊景品）も。全国のパチンコ店で、ヤクザによるみかじめ料（用心棒料）と換金所運営（古物商）が拡がった。（ヤクザのみかじめ料やいやがらせ暴力と斗った例も紹介）

＜第3章　電動式・大衆パチンコ時代＞

1969年：新パチンコ機（1分間に100発、1回出玉13個以内の連発機）

1973年：電動ハンドル機（座ってする椅子式化）、玉補給の自動化（補給と出玉の自動集計）、店の合理化ラッシュで自動貸玉機、台間玉代機が登場

1975年：手打ち連発廃止、電動機（電機仕掛機）でゲーム性向上、大三元ゲーム

1977年：スロット許可　貧しかった従業員の待遇や組合一丸のパチンコ祭り

　（パチンコ屋にとって招かれざる覚せい剤客、従業員の悪待遇、パチンコ祭りで「チンジャラ人生」の歌も紹介）

＜第4章　パチンコ狂騒曲＞

　1979年：ゲーム業界にインベーダーゲーム。

1980年：三共フィーバー機（警察は「起特電機」）が導入される。そして店に救急車、サラ金に手を出した‶パチンコ狂〟が生まれ、店内の金貸し婦人ら、迷惑オバサンも登場する。

　1982年：フィーバー機の自主規制（30％以内）、全遊協

　1984年：規制30秒、入賞玉10個、アタッカー10回の導入

　1985年：保通協、機械検定実施。（全国都道府県警や検察から中央一本化される）　アタッカー開く時間30秒から15秒へ。

　1988年：パチンコ店10400店（1993年には11500店245万台に）。オマケ機・オマケ釘（1990年禁止）。アタッカー10回から16回へ緩和。

　1991年：液晶役物遊技機登場

　1993年：パチンコ店17242店、357万台、パチスロ機73万台となる。

　1995年：パチンコ店18123店、382万台、パチスロ機・アレンジボール100万台（カードのＣＲ機導入店12746店）　遊技業はよりギャンブル化する。

　1998年：ＡＭマーク貼付（防犯立入検査をマークにする）、パチスロをはじめ正規のロムを射幸性の強いものに変える「カバン屋」登場　　　　　　　　　　　　　　　（次号につづく）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

賭けの哲学

井　上　善　雄

１．はじめに

　「哲学」とは一定の対象に対する基本的な視方・考え方とすると、本会報では何度も「賭けの哲学」の稿を掲載しています（会報8,23,40号）。「ノム・ウツ・カウ」のウツが人の本性という素朴な認識論から、「賭け」を政治経済の具（手段）とすることの是非論、また「賭け」の心理学や「賭け」における数理学（確率・統計）に及ぶもの、さらに「賭け」というゲームやギャンブルの遊びや文化論、様々なギャンブルの歴史、社会的規制とその根拠・思想まであります。古代以来のサイコロゲームから現在の組織化大規模化したカジノまで、その実態とそれを広めた企業や国家・政府、さらには労働（勤労）観にも「賭けの哲学」があります。日本特有のギャンブルであるパチンコ・パチスロは、数千万人を興（狂）じさせているもので、単なる一ゲーム、遊びの一つとすることは軽率な視方といえましょう。本会がテーマとするギャンブルの弊害と依存症は、社会病理から予防・治療までの問題を含む「賭けの哲学」抜きには語れないのです。

２．賭けの政治学

　　政治、そして現代政界を動かしている「賭けの政治」という視点でいうと、現在はカジノ導入をめぐる問題が焦眉です。その動向や考え方については何度か本会報で論じられています。表向きの導入論は地方経済の活性化、特にカジノリゾートなど観光振興をいうものです。しかし、その目的の内には、賭博を是とし地域振興手段としてよいという考えであることが明白です。

ここには刑法上の賭博禁止の哲学を除外し無視しています。賭博の遊興が専ら地域収益経済という振興になればよいという考え方です。ギャンブル依存や風紀、さらには犯罪の増加防止などもカジノ導入を前提とした範囲でしか考えていません。現在のギャンブルによる依存症、脱税、マネーローンダリング、地域環境への弊害などへの対策は責任領域外とする無責任さも見えます。このように社会政策として賭け・ギャンブルへの哲学を欠くことはよく指摘されています。

　　しかし、政治は、人々の健全な福祉と公共自治体の役割を増進することという本質から考えることが重要です。金儲けをすること、企業や地域の収益経済の向上は広義の政治目的の一つではあるでしょうが、金銭評価が政治で大きな意味を持つのは危険なことです。①必ずしも金銭評価されない地域の安全・安心、環境、教育、文化的価値の優越性、②その収益者とコスト負担者の公正公平な負担と配分、③不可逆的被害や不可避的被害のないことが正義の哲学です。この正義、公平、福祉こそ、政治における優先すべき哲学です。

３．賭けの経済学

　　富を生む労働による適正な社会、富の公平・公正な配分、富が人に有効・効率的配分されること、これによって人の最大多数の最大限の幸福を導くことが「世民（経済）」です。

　　賭けの経済とは、金儲けだけのことでも、企業が企業収益を得ることや、賭けの場を創設してそこに金銭市場と労働市場が生まれることだけでもありません。むしろ、賭け、特にギャンブルは企業経済の生産活動の安定、生産物価格の平準化、リスク回避といった保険とも全く異なる世界にあります。正当な労働や企業努力でなく、偶然性や射幸心本位の、安定を欠くどころか危険そのものの世界です。

すなわち、賭けを収益とし経済的利益を得るのは、営利のために賭博を開帳して必ず収益を得られる胴元となることや、富くじを発売して収益を確実に得るという者の方法でしかありません。賭博開帳は、世界的に見て国や政府が特に認めた場合を除き、犯罪として処罰されるものです。

収益のための略奪的ギャンブルは、大衆をその世界に呼ぶ企業主催者にとっては収益事業でも、社会大衆全体としては収奪される事業ですから、これが肯定される経済とはなりません。むしろ、ギャンブル依存症、犯罪被害の発生など負の経済を国家社会に与えますので、厚生経済学的視点からは反経済活動といえます。

４．賭けの社会学

　　賭けを遊びとして肯定できるなら、その面の一部だけは社会的に容認されます。しかし、一時の娯楽や健全な範囲で、当該個人や社会に弊害を及ぼさないという限定が必要です。賭けを「ノム・ウツ・カウ」と並べて、人が食事をし、バクチをし、性を買うことは避けられない本能として肯定する人は浅はかです。性を金で買うことも、射幸心を煽ってギャンブル社会を拡げることも、人の不可欠ないし不可避な欲望であるとして肯定する社会条件はありません。

　　かつて、ギャンブルの競馬が肯認されたり、カジノでのゲームが肯認されたのは、上流貴族階級の存在が正当と肯定容認され、その一部の者のゲームでその弊も限定されたからでした。庶民のバクチは歴史上のどんな社会でも見逃されても、積極的に肯認されていたわけではありません。

　　21世紀の多くの社会は、建前上身分差別もなく、ギャンブルの世界が肯認されると誰もが参加できることとなります。今やカジノでさえネクタイなどの正装は必ずしも要求されず、生活保護受給者が競馬の馬券や場外券を買える時代です。公営賭博として大衆賭博化し、経済余力のない人の射幸心も著しく煽った賭けの世界が生まれているのです。そこでは賭博開帳・富くじ一般化は危険です。

　　ギャンブルの種によってこれをスポーツゲームとして美化している人もあり、その側面も全くないわけではありませんが、今や公営競技レースはスポーツより射幸心本位の世界です。もし純粋にスポーツを愛するなら、金を儲けることは必ずしも必要ではありません。

　　現にスポーツになり得るも賭博の対象となるレースは限られ、人のスポーツ性はむしろ希薄です。例えば、馬でも人馬一体となる馬術競技はギャンブル対象になりません。野球ゲームやサイクリングでも50ｋｍレースなどは時間がかかり、賭けゲームとしては闇の世界の違法賭博でしょう。

　　このように人間の社会の共同生活の構造や機能においてギャンブルが不可避とする理由はなく、むしろその弊害が多く社会的な病理の原因となっているのです。

投稿

遊びと現代ギャンブルに導くシステム

　「遊び」は人が拘束された状況下で自由であろうとし、緩やかな喜びで満足させようとするものである。既成の社会ルール（規則）から遊離することもある。

現代のギャンブルは、高度管理化された規制から逃れ、救いを求める人や単に遊びの一種とする人までを巧みに取り込んだもので、合法（公営）ギャンブル、脱法ギャンブル、違法ギャンブルのシステムが一般化している。そして、賭博といえないまでもゲームは、スマホ、インターネットとさらに広まっており、ゲーム機による遊びとギャンブルが連続している。ゲーム機は大人から子供まで拡がり、それに「中毒」している人も多い。そして、人は自ら遊んでいるつもりでも、客観的には遊ばされ、依存させられ、健常でない「障害」者となっている人が多い。ゲームセンターに行けばパチンコ依存ジュニアを多数みることになる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（Ｈ）

パチンコ体験記

～「パチンコ研修ツアー」に参加して思ったこと ～

マルハンの店内に一度ははいったものの体よく追い出されて肌寒い店外で40分も再入店まで立ったまま待たされました。どうも弁護士バッチが相手に警戒されたようです。いろいろ交渉したあげくとりあえず入店させてもらえました。

御丁寧に黒服の店員が四名ピタリとくっついて遊び方のルールを説明してくれるのだが理解できないのです。店内は大音響で聞き取りづらく何度も聞き返してやっとお札を機械に入れて玉がジャラジャラと流れて来ました。でもハンドルをうまく操作できなくてもどかしい。うるさい上に目の前の画面が絶え間なくギラギラと光輝き落ち着けない、目が痛い頭も痛いきっと血圧が上がっているのだろうと思う。遊ぶというのはもっと楽しいはずなのにとおもいつつ我慢して努力しつつ玉を動かしてみるがうまくいかない。当然面白くも何ともない。

同じ列の客が興味深々という顔で私を見ている。当然である。椅子にチョンと腰かけて黒服のお兄さんはおろおろして馬鹿丁寧に指導するは外野はあれこれ指示するは当事者は不機嫌この上ない顔をしているはでは気にもなるだろう。一体何事だと思われても仕方がない光景なのだから当たり前です。一言でいえば場違いこの上ない光景そのものです。

結論を言えば遊ぶというには程遠い体験でした。同じ金額ならケーキセットを食べるか気になる本を買うそんな事しか思い浮かばないのでパチンコ遊びの資格は私にはありません。企画としては面白いと思いましたが意外に疲れる行為でした。景品もヤクルトとチョコ菓子を手にしましたがもうこりごりです。

津村　裕子

**日本ギャンブル症候群の歌**

現代日本のギャンブルをめぐる様々な病気を「歌語り」にしたものです。

１．今日も朝からパチンコに　新台導入チラシには　なぜかホール向かわせる

　　不思議な魔力があるらしい　菓子まで配って客を呼ぶ　甘い罠までついている

　　近ごろ加えた広告文　「のめり込みには注意して」「適度に遊んで下さい」と

　　客を依存にさせながら　損と病は自己責任　自らの罪棚に上げて

　　ワカッチャイルけど　ズルい店　それでもヤメラレないんだよ　アー！ア！

２．朝から今日は「サテライト」　スポーツ紙見て予想する　場内ほとんど年寄だ

　　ひげも剃らない男らが　テレビに映るレース買う　10年前に友人に

　　連れられ買って大当たり　その快感が忘られず　給与貯金をつぎ込んで

　　買ったり負けたりしてるけど　本当に勝てるわけがない

　　ワカッチャイルけど　ケイリンは　それでもヤメラレないんだよ　アー！ア！

３．無担保　無保証　金を貸す　30日間無利息でと　負けてるオレにはたまらない

　　借りた10万　競艇場　予想屋情報で買ったけど　当たらぬばかりで役立たず

　　出来レースかと思うけど　文句も言えず賭けちゃ負け

　　半日もたず昼も抜き　小銭は帰りの電車賃　借金だけは残ったぞ

　　ワカッチャイルけど　「ボートピア」　どんどんできる暴盗場　アー！ア！

４．借金返すはギャンブルで　稼いで返すしかないと　別のローンで借金し

　　もちろん本当のこと云えぬ　嘘も方便通ります　わかっていても金を貸す

　　今度は10枚宝くじ　加えてBIG10口も　これで自治体役立つと

　　言い訳しつつ馬券買い　とにかくウマくやりましょう

　　ワカッチャイルけど　ギャンブルは　それでもヤメラレないんだよ　アー！ア！

５．借金取りに追われゆく　とても足りない生活費　女房の貯金取り上げて

　　すぐに返すと嘘をつく　賭けがバレても謝って　またやる癖を繰り返す

　　親や友まで嘘ついて　会社サボって逃げるよう　パチンコに

　　90ホンの　騒音が　俺の悩みを忘れさせ

　　ワカッチャルけど　パチンコ・パチスロは　ヤメラレないんだよ　アー！ア！

６．かくてギャンブル依存症　生んで拡げた536万人

　　最大原因パチンコで　公営ギャンブル　くじまでも

　　そして犯罪　ヤミ賭博　これらが依存症生む主役です

　　さらに金貸し　今は消費者ローンです　そして後ろに銀行が

　　ワカッチャイルけど　金貸し金儲け　ヤメラレないんだよ　アー！ア！

７．こんな世の中誰がした　楽して儲け働かず　賭けて当たれば金になる

　株、先物に為替まで　証券会社も銀行も

素人までも勧誘し　誰もやってる　コレ投資

リスクは小さく嘘をいい　老後の金までまきあげる

　　ワカッチャイルけど　政府日銀も　ヤメラレないんだよ　アー！ア！

８．アベノミクスの建前は　大きな会社がまず儲け　中小企業も好景気

働く者にも賃金増　トリクルダウンというけれど

国債増えて　格差増え　経世済民　嘘ばかり

カジノ経済拡大中　アベノミクスにアホノミクス

ワカッチャイルけど　ケーキで騙すの　ヤメラレないんだよ　アー！ア！

９．福祉増やすと　消費税　10％上げますよ（上げません）

　　生活保護費の3兆円　年金問題先送り　子育て教育　金が要る

　　1億総活躍もかけ声で　生き甲斐心は後回し

　　金さえあればよしとする　心の病をカジノが何とかするという

　　ワカッチャイルけど　ギャンブル依存症　確実増やしていくんだよ　アー！ア！

10．ギャンブルの金　だれの金　遊ぶ客より盗った金

　　そのうち半分家族から　そして他人からとった金

盗んだ金の儲けさえ　ギャンブル事業者　知らん顔

自分の金にしているんだよ　税金なんかタックスヘブン

ワカッチャイルけど　社会の為とうそぶいて　ヤメラレないんだよ　アー！ア！

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

ギャンブルオンブズ狂歌・川柳　　＜投稿募集中！＞

【パチンコ・パチスロ】

　・朝早く　ホールに並び　台選び　釘調整で　勝てる筈だが

　・出玉を調整すれば　詐欺である　　（店がしたら調整でも客がしたらゴト師）

　・メーカーも新台宣伝　車内吊り　ホールは新機種導入チラシ

　・売り上げは　25兆円　世界一　　　　（貸玉額　その粗利は1割と）

　・ケーキ菓子　先着順で　配ります　パチスロホール　甘い誘惑

　・全国に　1万店余の　ミニカジノ　　　（欧米はパチスロをカジノと理解）

　・広告に「のめりこみには　注意して」　（病気と損は客の責任と店）

　・パチスロの　騒（操）音中は　ウサ忘れ　　（店がわざとやかましくしています）

　・依存症　最大原因　パチスロだ　ギャンブルでない遊技です

　・風適法　三店法で　脱法し　　　（店→換金用賞品→換金所→卸店→店）

【競馬】

　・昔から　馬の競争　賭けが付き　軍用役立つと合法歴史

　・公営の　競馬は　大衆収奪法　　　（公営競技みな同じ）

　・マスコミも　競馬宣伝　金儲け　本命報ず　スポーツ紙まで

　・馬も見ず　馬券を買って　賭けをする　　（ウインズ場外券購入、電話・ネット購入）

　・全国のデータ集めて　ウェブ買い　これぞ事業と　ギャンブルし

　・大穴の　一時所得を　脱税し　　　（源泉以外には捕捉できない国税局）

　・大レース　中央競馬は黒字でも　地方競馬は赤字が続く

　・馬持ちの　金持ちだけの　ぜいたく病　　（今は客減る地方は貧乏病）

　・三冠馬　五大レースに兆の賭け　馬券に課さぬ　消費税とは

　・源泉も　されぬ大穴　無申告　　　（税務署知っているけど）

【競輪】

　・大衆に　加重課税か　ケイリンは　貧乏人から収奪するとは

　・金持ちは　ケイリン場で　見かけない　　（年金生活者、無職らの群れ）

　・サテライト　全国車券　売っている　効率的に売り上げ増やす

　・客の視ぬ　ミッドナイトの　ケイリンも　　（とにかく賭けレース増やし）

　・赤字増え　収益なくば公益性　全くなくての害のあるのみ

　・収益の　ないケイリンに　公益なし　　（手段は悪でも金に罪なし！？）

　・ケイリンの　五輪ゲーム化　その意義は　賭けなどいらぬ　スポーツのみで

　・ケイリンの　プロの選手が　金（カネ）メダル？！　　（賞金で荒稼ぎできるから）

　・どうするか　累積赤字を　小さく見せ　客を増やして　やめぬ帳尻

　・数が減り　年寄客で　見込みなし

【競艇】

　・六艇の　競艇これは　八百長か　だけど3連単で万倍に

　・射幸度を　高めた券で　客増やす　　（競馬競輪も同じです）

　・元ドンの　日本財団ボッタクリ　金をもらって　人類同胞

　・同胞に　配るというが　奪い金　（日本財団）

　・ボートピア　池もボートもないけれど　主催者こそがユートピア

　・舟券の　2割3割　ピンはねる

　・ＴＶでタイツ女が客誘う　レディスデーも色香故なの？

【宝くじ・toto】

　・「当分の間」と始めし　宝くじ　タンス預金をいつまで狙う

　・すみやかに　止めると　閣議後60年

　・世界一　ボッタクリ度の宝くじ　買った9割　空くじに

　・連番の3000円で　300円

　・前後賞　合わせ10億　ジャンボくじ　2000万枚　買ったなら当たる

　・射幸心　それを夢とは　うまいこと　　（ドリームは名だけ）

　・totoくじも　スポーツ振興　名ばかりで　国立施設に10％ピンハネ

　・BIGくじ　機械任せの　くじのこと　　（まさか！ありえる）

【借金】

　・無保証で　30日間無利息は　ギャンブル資金にもってこいです　（アコム、アイフル…）

　・この金で　負け取り戻す　甘い罠

　・借金を　重ねて嘘の使い道　親・友・知人、ローン会社も

　・借金でギャンブル　すでに破局です

【依存症】

　・生活費　使い込みます　預貯金も　借金しても　賭け止まらない

　・この負けは　運のせいだと　言い訳し

　・パチスロにはまった者なら判る筈　大金とった記憶は消えず　　（ビギナーズラック）

　・大穴は　忘れられずに　いつまでも　　　（脳内にドーパミン）

　・やりすぎと　思っていてもやめられぬ　癖か依存か障害か

　・この興奮は　今しかないし　明日見えず

　・ギャンブルの金の出処　是非つけず　やりたいばかり　あとはこじつけ

　・まず勝って　戻せばよいと　これ病気

　・犯人は　賭博開帳する企業　依存者からの収益過半　　（これホント）

【カジノ】

　・日本にカジノ導入　街おこし　統合リゾート（ＩＲ）と美名の下に

　・日本の　地方再生　カジノにて　　（これ、第三の矢？）

　・カジノにて　外人マネー集めれる　アジアの先進ＩＲつくる

　・観光で　中国金持ち　呼び寄せる　　（マカオに続け！）

　・東京の　オリンピックに間に合わそ　外資業者も投資と乗り気

　・大阪も　カジノがほしい　夢洲に　　（橋下・松井）

　・不景気な　北海道に　カジノ案　　（高橋はるみ知事）

　・リゾートの　ハウステンボス　名乗り出て　　（ＨＩＳ）

　・宮崎の　シーガイアにも　カジノ来て　　（セガサミー里見）

　・お台場に　替えて横浜　絶好と　　（林文子市長）　　　　　　　＜以上10句は誘致派の夢＞

　・沖縄は　知事が変わって変更し　　（翁長知事）

　・東京のカジノ派　恨みマスゾエと　　（石原…猪瀬ときたのに…）

　・その他都市　カジノの夢は　さめかかり

　・ＩＲ　議員連盟　数集め　企業連中　金を集めて

　・カジノなど　いらぬギャンブル増やすだけ　国民の声　反対多し

　・ギャンブルは　借金地獄生みました　カジノ加えて　被害者増える

　・全国に　カジノ反対拡がって　ＩＲ法　審議進まず

　・経済界　カジノ誘致で金儲け　市場になればそれでよいだけ　　（経営者団体）

　・どういうかい？　カジノで夢の　洲つくる　　（関西同友会）

【政治・経済・哲学】

・安倍総理　アベノミクスで大企業　大儲けさせ　法人税下げ

　・中小の企業不景気　賃金も　上がらず所得　格差広がる

　・消費税　上げて福祉の口約も　軍備増やして原発再開

　・経済は　世の民を救うものなれど　今の経済　金儲けのみ

　・株、投機　先物、為替　カラ売りも　ギャンブル化した金融経済

　・ドル、ポンド、円にユーロに元までも　カジノ経済　決済通貨

　・選挙では　嘘で騙して　景気上向く

　・選挙には　票が要ります　地元への　金のバラ撒き

　・上の金　トリクルダウンで　滴ると　いうのはこれぞ　トリックだわん

　・ギャンブルは　リスクヘッジと　違います　　（損失回避）

　・ギャンブルを　保険にすれば　損残る　　（保険会社の収入分）

　・ギャンブルは　富の取り合い　富生まぬ　富生む働き　世には与えず

　・スミス言う　富を生むのは労働と　サムエルソンも　ギャンブルはダメ

　・貧困層　なお収奪をする　賭博図利　どんな正義もある筈がない

　・病生み　負の経済を他に転嫁　自ら暴利　丸儲けとは

書籍紹介　今回はカジノ導入をめぐる出版をまとめて評します。

１．安藤福郎氏　４著作

　　2010年以降、ＩＲ法（カジノ法）導入問題が政治課題として大きくなり、カジノを紹介する様々な出版物が多くなっている。安藤氏は、1990年代からカジノをめぐる世界の状況、カジノ経営の情報を発信し、合法化の推進役となる「日本カジノ学会」の呼び掛け人で、常任理事となった。その氏による推進派著書としての４作を紹介する。

　　これら４著作は、その後ＩＲ法立法化の動きに乗ったカジノコンサルの各出版物と比べても非常に詳しく、後続のコンサルによる出版物の参考書になっている。

（１）『世界カジノ白書』（1995.8.10　データハウス　2800円＋税　284頁）

　　　①ヨーロッパ、②アフリカ・インド洋、③北米、④中米・カリブ、⑤南米、⑥アジア・オーストラリア・太平洋、⑦海上カジノ、⑧カジノのゲームからなる章立てで、かなり詳しく紹介している。写真を交えてホテルやゲーム、そして法規制までよく資料を集めて紹介している。いわば、世界のカジノハンドブックである。

（２）『２１世紀ビジネス―カジノ経営』（1996　1400円＋税　217頁）

　　　カジノビジネスへのガイドブック。①カジノビジネスはどれくらい儲かるか、②カジノライセンスを取得するには、③ゲームの利益計算方法と税金、④カジノの構成人員と組織チャート、⑤カジノホテルの経営戦略、⑥ギャンブル資金の貸付、⑦ギャンブルに伴う不正行為、⑧不正防止・監理着眼点、⑨ラスベガスの姿、⑩ニュージャージー州カジノ政策、⑪その他の国のカジノ、⑫忘れられぬ人々、⑬世界一ギャンブルを嫌う国、⑭ギャンブルは原罪か、⑮提言　刑法改定と賭博管理法の制定を　の章からなる。

　　　「カジノ解禁は間近！！」と帯書きにあるように、カジノ導入への企業コンサルとして詳しい。

（３）『カジノ合法化の時代―地方分権と福祉財源に―』（1997　2000円＋税　213頁）

　　　①アメリカカジノ産業の成長予測、②カジノ合法化に歩み出した台湾、③各国のカジノ合法化理由と反対論理由、④賭博反対の本当の理由、⑤その他の反対理由、⑥賭博依存症はどうする、⑦米カジノの税収・経済効果、⑧各国モデル、⑨各国カジノの規制・制限、⑩外国カジノの決算書から、⑪地方分権にカジノが役立つ　の章からなる。

　　　カジノ推進のコンサルとして、早々と課題テーマについて端的に述べている。

（４）『カジノブーム―法制化と公募入札―』（1997　2000円＋税　217頁）

　　　①カジノは何を売っているのか、②カジノのカテゴリー区分、③合法化は世界潮流、④アメリカケース、⑤ゲーミング委員会（インディアナ州）、⑥ゲーミング法制・ライセンス審査、⑦オーストラリア、⑧ニュージーランド、⑨カジノ公募・入札、⑩南の島のカジノ騒動、⑪ギャンブル性向・嵌り症調査、⑫ラスベガス旅行者の消費者性向　の章からなる。

　　　アメリカ・インディアナ、ラスベガスにオーストラリア、ニュージーランドまで含めたカジノ合法化へのブームづくりの書籍第４弾。

２．『新日本のカジノ産業―超高齢化社会だからこそ期待される！』　上野健一

　（2006　しののめ出版　1400円＋税）

　　「日本ゲーミング産業協会会長」を名乗る上野氏による著作であるが、新しく参考にできるとことはない。

３．『カジノは日本を救うのか？』　苫米地英人　（2014　サイゾー　1300円＋税）

　　　苫米地氏は認知科学者。ＩＲ法によるカジノのメリットとデメリットを整理している。賛成派は「金」に集約され、反対派は「金に換えられないもの」をみているという。

ギャンブルＮＥＷＳピックｕｐ　（2016.5.27～6.11）

2016.5.26　　大阪市ＨＰ　「夢洲における国際観光拠点形成に向けた事業アイデアを募集」

5.27　　産経　　　関西経済同友会　鈴木新代表幹事、ＩＲの大阪誘致構想も言及

ﾏｶｵ新　　 マカオ、カジノ低迷長期化も失業率1％台を維持＝2～4月期雇用統計

　　　5.28　　東京　　　参院選かながわ　足元の課題（1）横浜のカジノ構想　経済振興に希望

　　　　　　　福島民友　 福島県商工信組・元男性職員265万円着服　パチンコや飲食代に

　　　5.29　　西日本　　パチンコ駐車場の幼児放置、歌で防ごう　鹿児島

　　　5.30　　テレ朝　　落とし物の10万円‶横領〟パチンコに…42歳海自の男

　　　　　　　ＪＳＴ　　マニラのカジノ、汚れた金の洗浄場所に　規制抜け穴で

　　　　　　　ﾏｶｵ新　　 マカオ、総体犯罪件数7.1％減…カジノ低迷長期化も治安情勢は良

　　　5.31　　共同　　　政府、アルコール依存症対策強化　医療と相談の拠点整備

　　　6.2　　ﾏｶｵ新　　 マカオ、新規ギャンブル依存支援要請件数は毎年約130～150件

　　　6.5　　神戸　　 ネットカジノ店営業で暴力団組員ら7人逮捕　兵庫・加古川

　　　6.6　　ＮＨＫ　　ギャンブル依存症支援施設、山梨に

　　　6.11　　ﾏｶｵ新　　マカオ、強盗被害を自作自演のマレーシア人を逮捕「カジノの負けを家族から叱責されたくなかった」

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

**事務局だより**

○　ギャンブルオンブズマンは2012年4月に発足し、会報も今回で44号となりました。

これまでの会報を見た某出版社より、事務局井上のもとに出版の依頼がありました。既にギャンブル、特にカジノについては賛否双方からの出版物も多く、私どもと同様の立場の出版に加えて新しい視点があるのかも検討して対応を考えています。

ご意見等ありましたら井上までお知らせください。

○　ＩＲカジノ法案は参院選などで停止中ですが、選挙が終われば再び推進派が動き出す可能性が高いといえます。ＩＲ法は、カジノの負の影響を政府に転嫁するものです。国（総理府？）がその任に当たらされるのでしょうが、ＩＲカジノで儲けた金でその対策をとるという浅ましい（？）厚かましい（？）構想に対し、鉄槌が必要です。

そして、カジノには慎重だった舛添氏の後任知事が「お台場カジノ」をどうするのか、注目されます。

当会は財政上は専らカンパで成り立っています。

会費・カンパを下記口座までお願いします。

記

りそな銀行　北浜支店　普通０１１５７１９

口座名義：ギャンブル被害をなくす会

当会は財政上は専らカンパで成り立っています。

会費・カンパを下記口座までお願いします。

記

りそな銀行　北浜支店　普通０１１５７１９

口座名義：ギャンブル被害をなくす会